

司 式 ローレンス・スパーリンク宣教師

奏 楽 大日南苗香姉妹

前 奏

開 会 招 詞 エフェソの使徒への手紙1章11-12節

* 賛 美 歌 11:1 主のさかえに

主のさかえに いりたまひし

このひをむかうる そのうれしさ。 **アーメン**

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 3 罪 の 告 白 ②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しななければならないことをせず、してはならないことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言 エフェソの信徒への手紙2章1、4-5 a、6節

十 戒 祈 禱 書 4

- あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
- あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
- あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
- 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
- あなたの父と母を敬え。
- あなたは殺してはならない。
- あなたは姦淫してはならない。
- あなたは盗んではならない。
- あなたは隣人について偽証してはならない。
- あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。

(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 30:1 いともとうとき

いともとうとき主はくだりて、血のあたいもてたみをすくい、

きよきすまいをつくりたてて、そのいしずえとなりたえり。 **アーメン**

公 同 の 祈 禱 祈 禱 書 6 ニケア信条(三位一体主日・その他適切な主日)

我らは、唯一の全能の神、天と地と、すべて見えるものと見えざるものとの創造者を信ず。
我らは、唯一の主、神の独り子、イエス・キリストを信ず。主は、あらゆる世のさきにも父より生まれ、神よりの神、光よりの光、造られずして生まれ、み父と同一の本質にいます真の神。

ばんぶつ かれ つく しゅ われ にんげん われ すく てん くだ せいれい
万物は彼によりて造られた。主は、我ら人間のため、我らの救いのために天より降り、聖霊に
よって処女マリアより受肉して人となり、我らのために、ポンテオ・ピラトのもとに十字架につ
けられ、苦しみを受け、葬られ、聖書に従って三日目によみがえり、天に昇り、み父の右に座
し、生ける者と死ねる者とを審くために、栄光をおびて再び来たりたもう。その御国は終わるこ
とがない。

われらは、生命の与え主にして、主なる聖霊を信ず。聖霊はみ父と御子とより出で、み父と御子と
ともに礼拝され、あがめられ、預言者を通して語りたもう。我らは、唯一の聖なる公同の使徒的
教会を信ず。我らは、罪の赦しのための、唯一の洗礼を告白す。我らは、死人のよみがえりと、来
たるべき世の命とを待ち望む。 アーメン。

献 金 (黒)教会活動 (赤)海外医療協力会を覚えて 70
今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 使徒言行録20章17-38 (新約聖書254頁)

説教・祈祷 「最も大事な勧め」 L. スパーリンク宣教師

* 賛美歌 54:1 みかみのことば
みかみのことばをかざしてすすまん、さからうあくまは
てだてをつくし、いかにたけくせめおどすとも。 **アーメン**

* 主の祈り 祈祷書1
てん われ ちち
天にまします我らの父よ
ねが みな
願わくは御名をあがめさせたまえ
みくに き みころ てん ち
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
われ にちよう かつて きよう あた
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
われ つみ おか もの われ つみ ゆる
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
われ こころ あ あく すく いた
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
くに ちから さか われ かげ なんじ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり **アーメン**。

* 頌 栄 54:4 さかえにかがやく
さかえにかがやく みくらをめぐり、はえあるかちうた
たからにうたわん。きよきみ名に みさかえあれや。 **アーメン**

* 祝 禱 エフェソの信徒への手紙6章23-24節
後 奏 (黙禱)

報 告 門脇献一長老(司会・受付 次週:古澤兵庫長老)

本日 受付 1階:加藤良明執事 2階:森永美保執事 / 動画:森永翔馬兄弟 録音:門脇光生兄弟
次週 受付 1階:佐藤紀子執事 2階:藤井牧子執事 動画:大日南信也執事 録音:番場駿也兄弟

2021年6月13日

説教題： 最も大事な勧め

参照：ハイデルベルク信仰問答問 Q. & A. 123、127

説教者：ローレンス・スパーリンク(キリスト改革派日本伝道会宣教師)

中心的主張点：最も大切なことは神様より賜る恵みの御ことばである。だからこそこれを受け入れ、これにとどまり、これを 愛を持って伝え続けるのである。

聖書箇所：使徒言行録20章17-38

(新共同訳、新約聖書254頁)

パウロはミレトスからエフェソに人をやって、教会の長老たちを呼び寄せた。長老たちが集まって来たとき、パウロはこう話した。「アジア州に来た最初の日以来、わたしがあなたがたと共にどのように過ごしてきたかは、よくご存じです。すなわち、自分を全く取るに足りない者と思い、涙を流しながら、また、ユダヤ人の数々の陰謀によってこの身にふりかかってきた試練に遭いながらも、主にお仕えしてきました。役に立つことは一つ残らず、公衆の面前でも方々の家でも、あなたがたに伝え、また教えてきました。神に対する悔い改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰とを、ユダヤ人にもギリシア人にも力強く証してきたのです。

そして今、わたしは、“霊”に促されてエルサレムに行きます。そこでどんなことがこの身に起こるか、何も分かりません。ただ、投獄と苦難とがわたしを待ち受けているということだけは、聖霊がどこの町でもはっきり告げてくださっています。しかし、自分の決められた道を走りとおし、また、主イエスからいただいた、神の恵みの福音を力強く証するという任務を果たすことができさえすれば、この命すら決して惜しいとは思いません。そして今、あなたがたが皆もう二度とわたしの顔を見ることのないとわたしには分かっています。わたしは、あなたがたの間を巡回して御国を宣べ伝えたのです。だから、特に今日ははっきり言います。だれの血についても、わたしには責任がありません。わたしは、神の御計画をすべて、ひるむことなくあなたがたに伝えたからです。どうか、あなたがた自身と群れ全体とに気を配ってください。聖霊は、神が御子の血によって御自分のものとなさった神の教会の世話をさせるために、あなたがたをこの群れの監督者に任命なさったのです。わたしが去った後に、残忍な狼どもがあなたがたのところへ入り込んで来て群れを荒らすことが、わたしには分かっています。また、あなたがた自身の中からも、邪説を唱えて弟子たちを従わせようとする者が現れます。だから、わたしが三年間、あなたがた一人一人に夜も昼も涙を流して教えてきたことを思い起こして、目を覚ましていなさい。そして今、神とその恵みの言葉とにあなたがたをゆだねます。この言葉は、あなたがたを造り上げ、聖なる者とされたすべての人々と共に恵みを受け継がせることができるのです。わたしは、他人の金銀や衣服をむさぼったことはありません。ご存じのとおり、わたしはこの手で、わたし自身の生活のためにも、共にいた人々のためにも働いたのです。あなたがたもこのように働いて弱い者を助けるように、また、主イエス御自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、わたしはいつも身をもって示してきました。」

このように話してから、パウロは皆と一緒にひざまずいて祈った。人々は皆激しく泣き、パウロの首を抱いて接吻した。特に、自分の顔をもう二度と見ることはあるまいとパウロが言ったので、非常に悲しんだ。人々はパウロを船まで見送りに行った。

(以上は神様の御ことばです。主に感謝します。)

序説： エフェソの教会について 他のどの教会よりも豊富な情報が聖書にあります。

使徒言行録の18章でパウロが非常に短く訪れたことと、ローマから追放されたユダヤ人のプリスキラとアクラ、そしてまた、有能な伝道者、アレクサンドリア出身のユダヤ人クリスチャン アポロの滞在と活動が書いてあります。使徒言行録19章はパウロのおよそ三年間の宣教活動と、エフェソで起こった騒動を記録しています。そして本日の20章の文書があります。さらに、エフェソの信徒への手紙もありますし、黙示録2章1-7節では、エフェソ教会宛の栄光の主イエス様の手紙があります。そ

して、古代から残された記録によりますと、年寄りとなった使徒ヨハネがその晩年をこのエフェソで過ごされたようで、ヨハネの手紙もエフェソ教会の状況が行間に出ていると思われています。これら全部を調べる時間ももちろんありませんが、私たちにとって、エフェソ教会は偉大な先輩教会であり、たくさんの方の遺産と教訓を残しておられることが言うまでもないことです。中には本日の箇所も非常に大切なわけですね。使徒パウロの彼らとのお別れに当たっての説教で、最も大切な勧めがあります。

1、使徒パウロは自分の任命をエフェソで思い切って果たします。

イ、異邦人伝道への召しはキリストの特別な御計画がありました（使徒9章を参照）。だからと言って、ユダヤ人を無視しているわけではありません。いつもの戦略通り、パウロがまず先に町にあったユダヤ人の会堂に行って、聖書を一緒に開きながら、ナザレのイエス様が先祖に約束された救い主であることを説教し、信仰を勧めます。そしてついでに、いわゆる「異邦人」に、誠の神様とキリストのことを宣べ伝えます。これがイエス様からの任命です。「全ての民を私の弟子にしなさい」の通りです。そのために、使徒パウロこそが最もよく整えられた働き人です。優れた教育の中で、聖書はもちろんですが、多文化と他国語もよく学んでいます。そしてさらに、非常に熱心で勤勉です。

ロ、行ってみると、主は予めエフェソのいわゆる畑の土を御言葉の種を受けるためによく準備して下さったことがわかります。その地方の最も大切な町で、港ですから、多くの人たちが通ります。古代の7つの不思議の一つがこの町にあります。女神のダイアナの神殿です。つまり、宗教に対する熱い思いを抱く人が多くいるわけですね。

ハ、なぜエフェソにこんなに長くとどまるのでしょうか。先にも話したように、世界中のいろいろな商売人の行き来があり、ここで起こることがすぐに他の多くのところに流れていくからです。ここで福音を聞いて入信する滞在者は帰国する、あるいは帰省すると、救いのメッセージを広めるわけですね。今日もこのような都会伝道には大きな利点がありますね。19章でパウロの伝道の成果が出ていますが、多くの呪い師や他宗教の者たちが悔い改めてイエス様を信じるようになります。ダイアナ神殿の活動、ダイアナの銀の像を販売して、多くの儲けをしている人たちが警戒して騒動を起こすほどです。パウロの説教の中でこれらの像が偶像礼拝であり、もともとデタラメの神話に基づいているというわけですね。これは私が例えば、高崎市あたりのダルマ製造と販売を同じように批判すれば、これらで生活を維持している人たちが同じようになるでしょう。実はそうですが、高崎。

ニ、エフェソ教会はその後の教会史に多くの教訓を残しています。この町で多くの偶像崇拜者もいれば、多くの異教や異端が次々と生じる町だからです。パウロの20章にある警告もありますし、使徒ヨハネの手紙にも厳しい注意への呼びかけもあります。そのために、すなわち、正統なキリスト教信仰を保つために、ニケヤ信条のようなものが作成されて行ったのです。

2、使徒パウロのメッセージは今日の箇所です。非常に分かりやすく書いてあります。

イ、長らかに語ったはずの内容を使徒言行録の著者ルカがまとめてくれる中で救いのメッセージははっきりしています。20章が語るパウロ達とエフェソ教会の長老達の会合はだいぶ長かったでしょう。しかしこれを語る記事が割と短いです。使徒言行録の著者ルカはパウロと他の仲間と同行している時ですから、自分で見聞きして、書いた内容をパウロに確認できたはずですね。救いの道についてパウロの教えがこの短い箇所でも4回も出ています。

= 20章21節：ユダヤ人にもギリシヤ人にも悔い改めて信じることを中心にしています。これはイエス様と全く同じメッセージですね。

= 20章24節：神様の恵みのグッドニュースについて証していると言います。

= 20章27-28節：教会は主の羊の群れであり、イエス様の贖いの血によって（滅び行く運命より命へと）買い戻された人たちである。

= 20章32節：神様の恵みの御ことばによって救われ、聖なるものとされていく。

パウロは自分のメッセージがこうだったことを改めて強調しています。誰にでも理解できるように分かりやすく述べています。

ロ、さらに、使徒パウロの姿勢と行動はそのメッセージを裏付け、また模範を提供してくれます。20章18-20節では、中傷や反抗があったにもかかわらず、謙ってその活動を続けています。彼らの

役に立つことならこれに集中していました。31節では、敵対するものを攻撃せず、あるいは、滑らかな舌でセールスマンのふりをするのではなく、涙を流しながら、彼らに注意を呼びかけます。33-35節では、他の宗教家のようにお金作りの裏心を持たず、勤勉に働いて、自分のニーズを自分の仕事で満たしています。こうして、彼らの救いのためならなんでも尽力して、このような模範を示すのです。パウロはただひたすらに彼らの救われることを願って、裏表の違いがなく、熱心に、献身的に働く、名誉あるキリストの労働者です。

ハ、エフェソの教会への手紙にもこれらを確認することができます。これらが使徒パウロのところに常にある思いと姿勢です。

3、使徒パウロの警戒への呼びかけも本会合の大事な目的でした。中心的な課題です。教会を熱心に守るように長老たちに懇願します。その注意事項を確認しましょう。

イ、「ユダヤ人からの陰謀」がその時代の大きな悩みでした。使徒パウロがとんでもない中傷の対象になり、キリストを認めないユダヤ人に激しく敵視されます。考えてみれば、ダマスコへの道のりに栄光のイエス様に出会うまでは自分自身も教会を迫害するものでした。

ロ、福音宣教に投獄と困難が伴うが、気を落してはならないと言います。この世にいる限り、迫害があります。エフェソの信徒への手紙を書き出した時にパウロは実は投獄中でした。このような経験は例外ではなく、当たり前のように起こるので、心の備えをするように呼びかけます。実は今日にもこのような現象があるのです。例えば、中国で非公認の伝道者は逮捕されることが普通であるという証をよく聞いたりします。イエス様もあらかじめ迫害が起こるとおっしゃいました。

ハ、29節では異教を勧めるものが外から誤った教えを持ち込んでしまうことに注意を呼びかけます。呪い師、偽りの預言者、宗教を金儲けの手段にするもの、グノシス主義の布教活動によって主の民をキリストから引き離そうとするものがいろいろ現れます。ヨハネもその手紙で注意を呼びかけます。また、自由主義の思想に要注意！ それは、キリストの救いは魂の救いであり、体はどうでもいい、体の欲するままにどんな淫らなことをやっても関係ないと主張します。黙示録にあるエフェソ教会宛のイエス様の手紙もこれを指摘しています。

二、でも、もっと恐ろしいことがあります。それは30節に出てきますが、異教や異端が教会の中からも生じることです。「あのパウロは誤っていたよ。割礼を施すべき、儀式律法を守ってユダヤ教に回心しないといけない。」あるいは、「イエス様の再臨がすでに起こったよ。死者の復活などない。」あるいは、「イエス様は礼拝すべき神ではない。被造物だ。聖霊も単なる神の力であって、お方ではない。」「私に神様の啓示があった。この私に聞くべきだ。」

ホ、今日の場合は？ つまり、今日もこのような現象はないでしょうか。あるのです！ わたしたちも警戒しなければ、用心しなければならないのです。古代から今も生き残っている異端があります。カルトもあります。聖書を疑問視するように教える偽りの教師もいます。例えば、旧約聖書の歴史は大体全部が作り話であるといい、紅海に道が開かれ、イスラエルの民が無事に渡った出来事は実話ではないと教えます。聖書に記録されている奇跡も実際の根拠のない神話である、と。あるいは、このような思いを前提にして聖書釈義あるいは聖書翻訳にあたる学者が非常に多くいます。福音書が語るナザレのイエスは実にどんな人物だったか、福音書の著者たちは信用できないから、その裏にあった真実を掘りださなければならない、とか。このような、中から生まれてくる過ちは場合によって伝染病のようにコロナウィルスよりもはるかに危険な炎症を起こし、主の民をイエス様から引き離そうとします。ですから、神学校教授や説教する教師に対して厳しい訓練が必要です。教会役員、特に長老たちの訓練と教育に念を入れなければなりません。パウロ自身もかつてそんな誤りを抱いていたからこそ、その危険性を常に警戒する必要がよくわかったのです。

4、これだけの悪しきものや危険があるならば、どうやって忠実に信仰の道を歩み続けるのでしょうか。その秘訣は次のとおりです：神の恵みの御ことばによって保たれ、また成長するのです。32節のとおりです。

イ、クリスチャン同士の絆も大事ですが、神様にしっかりと結ばれることを目指します。この箇所はテモテへの第二の手紙3章14-17節にととても似ています。「この書物は、キリスト・イエスへの信

仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです。」また、ヨハネによる福音書17章にあるイエス様の祈りの言葉を思い出します。「真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です。」(ヨハネ伝17:17) いつの時代にも廃れることのない、聖書は真理であり、力があるわけです。第一の秘訣は御ことばです。つまり、聖書に熱心に親しむことです。

口、第二に、仕える心を持ち続けることです。主の御心にかなう教会の様子がどんなものかといえは、それは 主の栄光を讃えながら、お互いに愛を持って仕え合うのです。

ハ、また、第3には、しっかりした教会役員が不可欠な役割を果たすことです。訓練と教育をちゃんと受けた有資格者が教会にとって大きな宝です。これは長老の話だけではありません。神学校の教授と教師、牧師達もそうです。お互いを見守る体制があり、羊のためなら自分の命を捨てる覚悟ができているのでしょうか。良き羊飼はそんなものです。

二、結局、保証がありませんので、いつでも油断していないかと自問しなければなりません。でも、羊を食い荒らすものがないかと警戒心だけではダメです。エフェソ教会はその後 キリストにどう評価されるか。黙示録2章2-3節にこうあります。「あなたの行いと労苦と忍耐を知っており、また、あなたが悪者どもに我慢できず、自ら使徒と称して実はそうでない者どもを調べ、彼らのうそを見抜いたことも知っている。あなたはよく忍耐して、わたしの名のために我慢し、疲れ果てることがなかった。」このような賞賛の言葉があります、けれども、ざんねんながら、批判もあります。それは黙示録の2章4-5節にあります。「しかし、あなたに言うべきことがある。あなたは初めのころの愛から離れてしまった。だから、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて初めのころの行いに立ち戻れ。」とイエス様が忠告を語ります。イエス様によると、彼らはパウロの忠告をよく覚えて、異端をちゃんと識別して教会から除くことが上手でしたが、バランスを崩していました。イエス様の言葉を思い出します。「世はあなた方がお互いを愛し合うことを見て、あなた方がわたしの弟子であることを知る。」これも御ことばが教えてくれます。正しい教理をちゃんと保つと同時に、お互いを熱心に愛し合うこと。この両方を持つ教会は幸いです。

決論：神様はその恵みの御ことばによって私たち「を造り上げ、聖なる者とされたすべての人々と共に恵みを受け継がせることができるのです。」いつの時代にも頼りになる恵みの御ことばの教えを取り入れ、これを用いて信仰を正して、過ちを明るみに出しながら、救いの道を語り続ける、しかも、「愛に根ざし、愛にしっかりと立つものとされて。」結局、神様が望んでおられる教会に、神様が喜ばれるクリスチャンになることができるのでしょうか。神様の大きい恵みによってその答えは：YESです！ 主の恵みを期待して励もうではありませんか。